

子どもの本や、子どもの読書活動に関する県内外の情報をお届けします！

山梨県子ども読書支援センター（県立図書館内） TEL 055-255-1040 <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>



○県内図書館活動紹介○ 長坂町内図書館連携会議(北杜市) 公共図書館と学校図書館が連携して行うブックトーク

北杜市ながさか図書館と長坂町内の学校図書館が連携して行っているブックトークについて、ながさか図書館の社さん、中山さんと、山梨県立北杜高等学校の有野さんに伺いました。

〈活動の概要・特色〉

長坂町内図書館連携会議は、平成22年度に公共図書館と学校図書館の連携を深め、子どもたちの読書活動を支えるために発足しました。令和7年度のメンバーは、北杜市ながさか図書館と中央図書館職員、長坂町内の小・中・高等学校の学校司書の7名で構成されています。平成23年度からブックトークの勉強会とともに実践として、朝読書の時間に学校を訪問し、ブックトークを行う取り組みがスタートしました。公共図書館司書だけでなく学校司書が勤務校以外の学校で実施する点が特色です。有野さんによると、「生徒の注目度が高まる」「自校とは異なる反応を知ることができる」といった利点があるそうです。

〈ブックトーク実施の流れ〉

年度始めの連携会議で実施について話し合い、「夏休み前」など希望時期を確認します。今年度は3校で実施しました。当日は、10～15分で5冊前後の本を紹介します。実施後、紹介した本のリストは、小学校では担任と学校司書に渡し、中学・高校では生徒全員に配布します。また、学校図書館やながさか図書館でも紹介本の展示を行っています。

〈テーマ設定・選書・紹介方法で心がけていること〉

小学校

「夏休みおすすめ本」など、季節や時節に合わせてテーマを設定し、読書が好きな子も苦手な子も楽しめるよう、幅広いジャンルの本を紹介しています。

中学校

進路や時事にとらわれず、中学生の関心を引くことを重視してテーマを設定しています。最近出版された本や、新たな視点を与えてくれるような本も、選書の中に意識して入れています。

高校

学科やコースが複数あるため、クラスごとにテーマを設定しています。本に興味のない生徒も惹きつけられるよう、小説だけでなく、写真集、絵本、時にはマンガなど、様々な分野の本を選び、実際の読書につながるよう工夫しています。

紹介方法

写真を使ったり、登場人物や印象的な言葉をパネルにまとめて掲示したりするなど、視覚的に分かりやすい形でも紹介しています。小学生には本文の読み聞かせを行い、中高生には、紹介本を手取るきっかけとなるよう、関心を引きそうな場面を紹介するなど工夫し、「続きは読んでみてね」と伝えるようにしています。

〈児童・生徒の反応〉

小学校 「この本読んでみたい！」などの声もあがり、反応がとても良かったです。「ひとつのテーマでこんなに本があるなんて...」「気になる本がたくさんあった」などの感想が寄せられ、実際にながさか図書館に紹介した本を借りにきた児童もいました。

中学校 うなずきながら時折「この本知ってる！」と反応してくれるなど、積極的に耳を傾けてくれたため、話しやすかったです。また、ながさか図書館を訪れた際に、司書に話しかけてくれるなど嬉しい反応もありました。

高校 「自分が今まで知らなかった世界を、本で知ることができて面白かった」などの感想がありました。



図1 長坂小学校でのブックトークの様子



図2 長坂小学校にて配布したブックリスト



図3 甲陵中学校でのブックトークの様子

◇◆アクセス◆◇

北杜市ながさか図書館 <https://www.lib.city-hokuto.ed.jp/>
山梨県立北杜高等学校 <https://www.hokutoh.kai.ed.jp/>

帝京大学では2012年から、全学的な読書推進プロジェクト「共読ライブラリー」を実施しています。今回は、その活動を支える学生団体「帝京大学共読サポーターズ」の取り組みについて、帝京大学メディアライブラリーセンター(以下MELIC)の堀野さん、辺見さんに伺いました。

〈「共読」とは?〉

学生同士、あるいは教職員などと本を読み合い、薦め合い、話し合う、発展的循環型の読書スタイルです。本にあまり親しみのない学生にも、読書の楽しさを知ってもらい、次の本を手にするきっかけをつくることを目指しています。

〈「共読ライブラリー」とは?〉

MELICが松岡正剛氏との共同企画で立ち上げたプロジェクトです。総合的な共読プログラムの実施や主体的な読書習慣づくりを通して、学力向上とともに、情報を見極め、自分の価値を加え、表現する「情報編集力」の獲得を目的としています。

〈「共読サポーターズ」とは?〉

2012年に発足し、2025年度は51名が活動しています。学生主体で共読ライブラリーを盛り上げる中心的な存在です。読書の大切さは教職員だけでは伝わりにくいため、同じ学生である彼らが多様なアウトプットの手法で読書の新たな魅力を発信し、学内外へ読書の楽しさを広げています。主に学内で活動していますが、学外では、「図書館総合展」へ毎年出展しているほか、依頼を受けたワークショップなどを実施しています。

〈主な活動内容〉

①黒板本棚づくり



MELICの書架を活用して毎月テーマ展示を行い、学生ならではの視点で本の魅力を発信しています。

全体テーマから連想して個人のテーマを決めて選書します。単純なテーマ展示ではなく、自分の考えを表現し、見る人に伝えられるような選書や並べ方を心がけています。本と一緒にコメントカードを添え、本棚のストーリー(文脈)を紹介しています。

②ビブリオバトル



毎月1回、テーマを決めて、ビブリオバトルを実施しています。発表者はおすすめの本を1人3分で紹介し、最後に最も読みたくなった「チャンプ本」を1冊選びます。また、「質問集」を作成し、発表後の質疑応答で気軽に質問できるような雰囲気を作っています。おすすめの本を通じてお互いを知ることができる企画です。

③OPACレビュー



帝京大学図書館の蔵書検索システムのレビュー機能を活用し、読んだ本の紹介文を投稿してもらい、学生のおすすめ本を紹介する取り組みです。

毎月、投稿されたレビューの中から選定して館内に掲示し、QRコードで本文にアクセスできるよう工夫しています。階段のステップに貼ったキャッチコピー、書架に掲示しているOPACレビューのポスターは多くの方の目に留まっています。

OPAC URL
<https://lib-opac.teikyo-u.ac.jp/hachioji>

④MONDOストリート



本棚と黒板が一体になった側板書架で行う展示で、年4回担当の棚から1冊を選書して紹介します。通常分類(NDC=図書館で使われている本の分類法)の中で新たな本と出会う機会をつくる取り組みです。

黒板には、本の引用や要約、コメント、イラストを書き込みます。専門外の本も目次を見て、本の内容を想像しながら読む「目次読書法」で理解し紹介します。紹介本はよく借りられ、Xでの発信に著者や出版社から反響をいただくこともあります。



「MONDOストリート」製作の様子